



七十人
マーカス・B・ナッシュ長老

スペンサー のための聖文

「神様の愛ある教え 真実の聖文がとても好きです」
 (「いのりながらみ言葉読む時」『子供の歌集』66)

つまとわたしが結婚したとき、スペンサー・W・キンボー
 ル大管長 (1895 - 1985 年) は教会の会員たちに、
 家族と一緒に聖文を毎日読むようにはげました。預言者
 にしたがいだいたいと思ったわたしたちは、ふうふとして、また
 将来子どもが生まれたら子どもたちと一緒にそうしようと
 決めました。

何年もすぎて、子どもたちは末の子のスペンサーを入れて
 5人になりました。

スペンサーが6才のとき、わたしとつまが、子どもたちを
 ベビーシッターにあずけて数日家をはなれたことがありま
 した。家にもどり、スペンサーにわたしたちがいない間どう
 だったか聞いてみました。

スペンサーはなかなかねむれなかったと言いました。なぜ

あまりねむれなかったのか聞いてみると、しばらく考えて、
 分からないと言いました。

やがて夜になり、いつもどおり家族でモルモン書を読み
 始めました。

すると突然スペンサーが「これだ!」とさげんだのです。
 何のことを言っているのかわたしがたずねると、「だから夜、
 あまりねむれなかったんだよ」と言いました。

「なぜねむれなかったんだい」とたずねると、スペンサー
 は次のように答えました。

「お父さんとお母さんがいない間、ぼくたちモルモン書
 を読まなかったんだよ。ぼくは、モルモン書を読むときに感じる
 気持ちが好きなんだ。」

スペンサーは、毎日聖文を読むことによって、なぐさめや
 平安、せいいいのみちびきを得られることが分かっていた
 のです。

毎日聖文を読むときに、聖文を愛するようになります。
 聖文を愛するときに、せいいいによってみちびかれ、天の
 お父様によって強められるのです。■



イラスト：タニ・ジョーンズ